

粧う - 伝統美を生活の中に -

a2200825 野澤未令

背景・目的

2年間で学んできた漆の技法を作品として表すためにどのようなものを作ればいいのか考えたときに、漆は昔からある伝統美ということで私は「美」という言葉について着目した。私にとって「美」は化粧がそのひとつではないかと思った。

【漆 + 生活 + 化粧】

江戸時代は華やぎの品々としてお姫様の婚礼調度にも使われていたことから漆と「粧い」の関連性はとても深いと思われる。またその中には化粧道具や鏡をしまいこむ蒔絵の箱もある。現代にも同様に鏡や化粧道具が納められており、女性が毎日使うドレッサーは、まさに「粧う」ための大切な場所でもあると考えられる。

漆のドレッサーを制作し、粧いの空間を演出することで同世代の女性にも漆の幅広い存在を知ってもらいたいと思う。

コンセプト

- ・女性の現代の生活空間における新たな提案としてドレッサーを制作
- ・良き伝統をいかに生活の中に活かすか・漆を用いた空間づくり
- ・螺鈿などの装飾技法を用い、伝統的な漆芸表現を活かしつつも、その枠に捉われないデザインを表現

制作工程

- | | |
|-------------|--------|
| ・デザインの考案・検討 | ・中塗り |
| ・スケッチ | ・上塗り |
| 素材・サイズの決定 | ・上塗り研ぎ |
| ・木地制作 | ・装飾 |
| ・木地固め | 螺鈿等 |
| ・サビ地 | ・艶上げ |
| ・下塗り | 胴摺り等 |



木地制作



接着



木地固め サビ地



下塗り・中塗り・上塗り



上塗り研ぎ



装飾 艶上げ

考察と感想

私は短大に入学してからクラフトゼミに所属し今まで関わりのなかった漆について携わっていくうちに伝統工芸の素晴らしさを知ることができた。

テーマを「粧う」として進めていくにあたり「美」という言葉に着目したが、人それぞれ捉え方が違うので、どのように表現すれば漆ならではの良さを伝えられるのかとても悩んだ。

制作を行っていくうちに、今まで学んできた技法について改めて振り替える良い機会になった。伝統工芸として漆芸には様々な表現があるが、その表現までの工程は漆を塗ってから乾かすことや、でこぼこを水平にする研ぎなどの作業があるなど、時間をかけてひとつひとつの工程を行っていくという大切さがあってこそということ再度認識できた。

クラフトゼミでは漆の技法を学ぶこと以外にも、作品をただ作るだけでなくなぜそれを作るのか、どのような技法を用いるのか等考えるという大変さ大事さを学んだ。

また同時に忍耐力を身につけることができたと思う。2年間で身につけたこと・学んだことをこれからも生かした生活をしていこうと思う。